

事業報告

経費の節減、収益の確保に努めつつ、自己負担金4億519万円のほか、(公財)日本海事センターからの補助金5,000万円、日本内航海運組合総連合会からの補助金1,300万円、(一財)内航海運安定基金からの補助金598万円など海事関係団体のご支援をいただきながら、海技教育支援及び当該学生等に対する学資金の貸与等、海技教育の普及を図るための事業を実施した。

I. 海技教育支援事業

1. 学生等募集支援事業

(1) 広報活動の充実強化事業

近年の若年人口の減少に伴い、(独)海技教育機構の各校における生徒・学生募集活動は厳しさを増していることから、定員確保に向けた広報活動を強化するため、各校の担当者等に対して、進学専門業者による「広報担当者育成に係る研修」をWebにて実施した。

(2) 進学情報サイトの活用事業

Webサイト「13歳のハローワーク公式サイト」の特集記事として「海運の仕事」のコーナーを設け、(独)海技教育機構の海上技術学校及び海上技術短期大学校各校のホームページとの相互連携を図るとともに、「マイナビ進学」((株)マイナビ)及び「スタディサプリ進路」((株)リクルート)のサイトにも海上技術短期大学校5校それぞれの紹介ページを設ける等、各校の認知促進や資料請求の増加を図った。

(3) SNSを活用した海技教育機関の認知拡大事業

You Tubeなどで活用されている「ゆっくり動画」を活用し、海上技術短期大学校等のオープンキャンパスや入試情報、唐津校及び小樽校への通学経路や周辺のおすすめスポット、海上技術短期大学校等の学生等に対する奨学金に関する情報、海王丸体験航海など13本の短編動画を作成した。これら動画を前年度制作した内航海運の重要性や海上技術学校等における実技や座学を紹介する動画と合わせて公開し、これら学校の世間的認知度の向上を図るとともに、各学校の応募者数の増加を図った。

(4) 学校訪問等特別宣伝事業

① 海技教育機関の広報・宣伝事業

(独)海技教育機構の学生募集に直接効果のある各校で作成する学校案内・オープンキャンパス案内、ポスターの作成・送付に対する支援を行うとともに、教員が行う学校訪問に対する支援を行った。

また、各校が実施する体験入学や学校見学会、地方紙・一般紙等の地方版及び受験案内雑誌、進学情報サイトへの広告掲載を行い、各校の生徒・学生募集に対する支援を行った。

② 講師(内航代表者)派遣事業

コーウン・マリン(株)取締役の山下良一氏を国立唐津海上技術短期大学校に派遣し「内航船の魅力を学ぶ」という演題で、エスオーシーマリン(株)取締役の田中宏尚氏を国立小樽海上技術短期大学校に派遣し「内航船の魅力について」という演題で、エスオーシーマリン(株)の野添広樹氏を国立館山海上技術学校に派遣し「内航船の魅力について」という演題で講演を実施した。

受講した学生たちの多くは、内航海運の現状や内航船員としての心構えなどのアドバイスを受け、将来の目標と課題が明確になり、改めて海技者となる自覚と学習意欲の向上につながる有意義な事業となった。

2. 教育内容充実促進事業

(1) 内航船員教育関係者連絡会議の開催

(独)海技教育機構から船員教育機関の現状報告、日本内航海運組合総連合会及び(一社)日本旅客船協会から各業界の現状報告のあと、国土交通省海事局船員政策課課長補佐 杉山功氏による「海技人材の確保のあり方に関する検討会の中間とりまとめについて」と題する講演を実施し、関係者の情報共有を図るとともに、今後における海技人材の確保等について活発な意見交換が行われた。

(2) デジタル教材の制作・提供事業

ICT の活用により海技教育の質の向上と効率化を促進するため、海技教育機関の授業・実習で利活用できるデジタル教材が望まれていることから、デジタル化を優先すべきコンテンツを選定し、海技教育機構の教科書改訂に合わせ、機関係の補機(ポンプ、交流同期発電機、ボイラ、冷凍装置など)の内部構造に関するアニメーション動画を12本制作した。

3. 海技教育機関支援事業

就職促進支援事業

国土交通省地方運輸局等が主催する「めざせ！海技者セミナー」に(独)海技教育機構の生徒・学生等が参加するための貸切バス等交通の便を確保するための支援を行った。

関東運輸局主催に214名、四国運輸局主催に80名、北海道運輸局主催に31名、東北運輸局主催に42名、神戸運輸監理部主催に125名、九州運輸局主催に72名、中部運輸局主催に106名、合計延べ670名の学生・生徒が参加した。

4. 学生等災害援助事業

該当する災害がなかった。

Ⅱ. 学生等奨学金貸与等事業

1. 奨学金等貸与等事業

(1) 奨学金貸与事業

- ① 令和6年度の船員奨学金の新規採用奨学生は99名(前年度82名)で、奨学生定員214名(内航奨学生30名)に対する採用率は46.3%であった。
- ② 新規採用奨学生を含めた在学生への奨学金の貸与は249名(前年度254名)(うち内航奨学生66名(前年度64名))に対し、9,146万円の奨学金を貸与した。
- ③ 令和6年度末における貸与奨学生(一般奨学生、特別奨学生)は、1,025名(前年度1,040名)で、貸与奨学金の総額は、7億2,444万円であった。
- ④ 当該期間の貸与中奨学金の返還者は926名で、総額1億3,272万円の返還があった。

(2) 入学準備金貸与事業

海技教育機関への入学生で、入学準備金が必要と認められる生徒・学生 21名に対し、入学準備金420万円を貸与した。

当該期間中の入学準備金の返還者は98名で、総額433万円の返還があった。

2. 給付奨学金事業

経済的理由により修学困難な海上技術短期大学校の学生8名に対し、106万

円を給付した。

3. 特待生給付奨学金事業

海上技術短期大学校の特待生として選考された学生10名に対し、475万円を給付した。

4. 6級海技士養成奨学金貸与事業

船員未経験者を対象とした6級海技士第1種短期養成課程の入学生で奨学金が必要と認められる学生37名に対し、3,525万円を貸与した。

当該期間中の6級海技士養成奨学金の返還者は16名で、総額37万円の返還があった。

5. 奨学制度維持事業

奨学金パンフレットの作成・配布等により制度の周知に努めるとともに、電算システムを活用し、奨学金の貸与・返還等のデータ管理を行った。

6. 奨学金返還督促強化事業

奨学金の長期滞納者に対する返還促進を図るため、電話・文書による不足額請求のほか、内容証明による支払請求、裁判所への支払督促の申立てを行い、一定の成果を得た。

7. 表彰事業

(1) 人物・学業優秀者の表彰

令和6年度の海技教育機関卒業生のうち、各学校長から推薦のあった人物、学業の優秀な生徒・学生20名に対し、表彰状及び記念品を授与した。

(2) 練習船実習優秀者の表彰

(独)海技教育機構の練習船で実習訓練を受けた海技教育機関の生徒・学生のうち、実習成績が優秀な者14名に対し、表彰状及び記念品を授与した。

Ⅲ. 海洋研修等海事思想普及事業

1. 海洋研修事業

(1) 体験航海及び海洋教室実施事業

帆船「海王丸」を活用し、船や船員、海技教育への関心を高めるための青少年向けの海洋教室を2回(広島港、鹿児島港)のほか、児童養護施設の児童を招待した海洋教室を1回(神戸港)行った。

また、一般向けの国内体験航海を4回(敦賀港～神戸港、神戸港～函館港、函館港～横浜港、神戸港～東京港)及び遠洋体験航海1回(神戸港～シンガポール港)行った。

○海洋教室 3回 76(27)名

○国内体験航海 4回 37(3)名

○遠洋体験航海 1回 3(0)名

()内は、女子で内数

(2) 研修生等災害補償事業

該当する災害がなかった。

2. 海技教育普及事業

練習船見学会等支援事業

(独)海技教育機構の練習船が主催する一般公開及び見学会において、海技教育機関の周知・宣伝、入学者の安定的な確保を図るためのパンフレット等を作成し、配布した。また、参加者に対する施設入場者損害保険及び施設賠償責任保険を付保した。

IV. 練習船航海訓練支援事業

海技者の養成を支援するため、保有する帆船「海王丸」を(独)海技教育機構に貸与した。

V. 物品販売事業

1. 海王丸グッズ販売事業

練習船寄港地等4か所において帆船グッズ等の販売を行うとともに、ネットショップ等を活用して帆船「海王丸・日本丸」のグッズ販売を行った。

2. 売店等の運営による物品販売事業

(独)海技教育機構海技大学校構内の売店等において、物品販売事業を実施した。

表 1. 令和6年度奨学生の採用状況

(1) 一般奨学生

学 校 群		奨学生定員	1 学 年	2 学年以上	合 計	採 用 率
商船系大学		32 名	2 名	2 名	4 名	12.5 %
海技教育機構	海技大学校	5	3	0	3	60.0
	海上技術学校	22 (4)	12 (4)	0	12 (4)	54.5
	海上技術短期大学校	110 (26)	63 (26)	3	66 (26)	60.0
	計	137 (30)	78 (30)	3	81 (30)	59.1
商船高等専門学校	商船学科	40	11	2	13	32.5
	専攻科	5	1	0	1	20.0
	計	45	12	2	14	31.1
合計		214 (30)	92 (30)	7	99 (30)	46.3

(注) () 内は内航奨学生の内数

(2) 特別奨学生 (三号:特別奨学金による奨学生)

学 校 群	特奨三号奨学金による者
東京海洋大学	0 名
海上技術学校	3
計	3

(3) 給付奨学生

学 校 群	給付奨学金による者
海上技術短期大学校	8 名
計	8

(4) ふなのりゆめ奨学金

学 校 群	給付奨学金による者
海上技術短期大学校	10 名
計	10

(注)

商船系大学 東京海洋大学海洋工学部・神戸大学海洋政策科学部

海上技術学校 館山・唐津・口之津海上技術学校

海上技術短期大学校 . . . 小樽・宮古・清水・波方・唐津海上技術短期大学校

商船高等専門学校 . . . 富山高等専門学校・鳥羽・弓削・広島・大島商船高等専門学校

表 2. 令和6年度奨学金貸与・給付状況

一般奨学生及び給付奨学生

学 校 群			一般奨学金	給付奨学金	ふなのりゆめ 奨学金
商 船 系 大 学		人 員	11 名		
		金 額	5,550,000 円		
海 技 教 育 機 構	海技大学校	人 員	5		
		金 額	2,350,000		
	海上技術学校	人 員	56 (20)		
		金 額	17,003,000 (7,170,000)		
	海上技術短期大学校	人 員	106 (46)	8 名	10 名
		金 額	41,060,000 (19,500,000)	1,056,000 円	4,750,000 円
	計	人 員	167 (66)	8	10
		金 額	60,413,000 (26,670,000)	1,056,000	4,750,000
商 船 高 等 専 門 学 校	商船学科	人 員	65		
		金 額	22,800,000		
	専攻科	人 員	6		
		金 額	2,700,000		
	計	人 員	71		
		金 額	25,500,000		
合 計		人 員	249 (66)	8	10
		金 額	91,463,000 (26,670,000)	1,056,000	4,750,000

(注) ()内は内航船員育成奨学生へ貸与した人数、金額である。(内数)

表3. 令和6年度末奨学金の貸与状況

(1) 一般奨学生及び特別奨学生(一号)

学 校 群		貸 与 中 員 数			貸 与 中 金 額			
		一 般	特 一	計	一 般	特 一	計	
商船系大学		在学中	10 名	0 名	10 名	10,200,000 円	0 円	10,200,000 円
		返還中	64	0	64	60,160,900	0	60,160,900
海技教育機構	海 技 大 学 校	在学中	5	0	5	3,370,000	0	3,370,000
		返還中	46	0	46	27,904,050	0	27,904,050
	海 上 技 術 学 校	在学中	58	0	58	38,827,000	0	38,827,000
		返還中	258	2	260	152,044,470	1,061,200	153,105,670
	海 上 技 術 短 大	在学中	89	0	89	48,695,000	0	48,695,000
		返還中	181	0	181	83,701,399	0	83,701,399
商船高等専門学校		在学中	59	0	59	54,844,000	0	54,844,000
		返還中	253	0	253	243,637,964	0	243,637,964
計		在学中	221	0	221	155,936,000	0	155,936,000
		返還中	802	2	804	567,448,783	1,061,200	568,509,983
合 計		1,023	2	1,025	723,384,783	1,061,200	724,445,983	

(注) 特別奨学生(一号)とは、学費の支弁が困難なため、加算された奨学金を貸与された者

(2) 特別奨学生(二号)

学 校 群		員 数	金 額
商 船 系 大 学	在学中	0 名	0 円
	返還中	0	0
海 上 技 術 学 校	在学中	0	0
	返還中	0	0
商船高等専門学校	在学中	0	0
	返還中	0	0
計	在学中	0	0
	返還中	0	0
合 計		0	0

(注) 殉職船員の子弟で、特別奨学生期間中の貸与額の半額返還免除を受けた者

(3) 特別奨学生(三号)

学 校 群	員 数	貸 与 額
東 京 海 洋 大 学	0 名	0 円
海 上 技 術 学 校	3	150,000
合 計	3	150,000

(注) 特別奨学生(三号)とは、全額返還免除の奨学金を受けた者

表4. 令和6年度奨学金の返還状況

項 目		商船系大学	海 技 教 育 機 構			商 船 高 専	計
			海技大学校	海上技術学校	海上技術短大		
実 返 還		76 14,913,000	55 8,734,000	294 36,337,015	218 26,011,750	283 46,730,100	926 名 132,725,865 円
免 除	一般免除	0 0	1 513,750	0 0	0 0	0 0	1 名 513,750 円
	特二免除	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 名 0 円
	免 除 計	0 0	1 513,750	0 0	0 0	0 0	1 名 513,750 円
消 滅	時 効	1 71,900	0 0	0 0	0 0	0 0	2 名 71,900 円
	破 産	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 名 0 円
	消 滅 計	1 71,900	0 0	0 0	0 0	0 0	1 名 71,900 円

(注) ① 各欄上段の数値は員数、下段の数値は金額を示す。

② 今年度中の完済者数は、112名である。

表5. 令和6年度入学準備金の貸与状況

	商船系大学	海 技 教 育 機 構			商船高専	計
		海技大学校	海上技術学校	海上技術短大		
貸与人数	0	1	4	10	6	21 名
貸 与 額	0	200,000	800,000	2,000,000	1,200,000	4,200,000 円
返還人数	1	5	14	39	39	98 名
返 還 額	84,000	302,000	511,330	1,634,000	1,794,000	4,325,330 円

表6. 令和6年度 6級海技士養成奨学金貸与・返還状況

	尾道海技学院		日本海洋資格センター		合 計
	尾道	阿南	九州	関西	
貸与人数	11	4	22	0	37 名
貸 与 額	11,000,000	3,250,000	21,000,000	0	35,250,000 円
返還人数	4	3	9	0	16 名
返 還 額	70,000	60,000	240,000	0	370,000 円